

034 鎌倉時代 社会の変動

<農業の発展>

- ① 米麦二毛作 が、畿内 や 西日本 一帯に普及。
- ② 休耕地の多い 畠 から
常耕地の多い 畑 へ。
- 背景 肥料 の使用
〔 刈藪 や 草木灰 〕
- ③ 鉄製農具や 牛馬耕 の利用
武士が 下人 や 作人 を
利用して 農業経営 を行う
- ④ 食料生産増⇒自給作物以外の
商品作物栽培の余裕
灯油原料の 桂胡麻 栽培
- ⑤ 農民が地頭を訴えるほど自立。
紀伊国 阿比河荘 民訴状
ミミヲキリ、ハナヲソギ…

<商工業の発展>

- ① 農村にも手工業者が居住
鋳物師、鍛冶師、紺屋
- ② 余剰生産物はどうするか？
定期市 の開催
月に三度の 三斎市 増加
※六斎市は室町時代
中央⇄地方へ商品を 問
が運んでくる。
- ※定期市のにぎわいが、
「一遍上人絵伝」に
描かれている。
- ③ 常設店舗の 見世棚 も
京都などの都市で出現。
- ④ 同業者 組合の 座 も
出現⇒過当競争や共倒れを
防ぎ、商工業の発展に貢献

- ⑤ 商人は聖職〔宗教の権威で保護〕
神に仕える 神人、
天皇に仕える 供御人
の称号を得て商売を行った
保護する権威団体を 本所。
⇒本所^{ほんじよ}に 座役 を納めた。

◇流通

問 (問丸) …主に 船
を用いて米の 輸送 や 倉庫 業、
商品の流通を行う。

◇為替

遠隔地間の貨幣の輸送に 割符
で代用する。割符…借用書。

◇貨幣経済の普及

日宋貿易最大の輸入品。
元で 紙幣 を発行後
ますます宋銭輸入

◇金融業者…借上 (かしあげ)

(室町時代は土倉 どころ)

<悪党の出現>

貨幣 経済のうねりの中で
台頭してきた 新興 勢力。
(例) 河内 国の水銀鉾山経営
で力をつけた① 楠木正成
(例) 山陰道 の問丸経営で
力をつけた② 名和長年
(例) 分割相続 ので所領相続
がない庶子の③ 赤松円心
①②③とも
あ 幕府と主従関係にない武士
= 非御家人 という共通点
い 後醍醐天皇の倒幕勢力